

中医協「2014 年度第 8 回 診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会」 2015/1/26
DPC 病院 I 群の評価見直しが検討課題に

1 月 26 日に開催された診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会（分科会長：小山信彌・東邦大学医学部特任教授）では 2014 年度特別調査の結果について委員の意見を聴取した。

この特別調査は診療報酬における算定ルールや機能評価係数Ⅱ等の適切な見直しに向け、2014 年 11 月 26 日の同会において実施されたもの。調査対象は①分院が DPC 病院Ⅱ群となっている大学病院本院、②精神病床を備えていない大学病院本院、③ミスコーディングが多い医療機関と少ない医療機関——で、サンプルとして選定された計 7 医療機関からのヒアリング形式で行われた。

①、②ではそれぞれ「本院と分院の機能分化」「精神科を備えていない理由」等が調査の焦点となっており、ヒアリングでの医療機関からの回答は「教育・研究を本院、診療を分院が担っている」「学生・研修医教育における支障はない」というものだった。今回の意見聴取では委員から「地域の需要にysteている面もあり、DPC 病院Ⅰ群の多様化はやむを得ない」という声が挙がった一方で、この多様性を「機能評価係数Ⅱで評価していくはどうか」との提言もあった。

また、③については、ミスコーディングが少ない医療機関を模範とした体制構築を制度面から促していく必要があるという見解で一致した。具体的には、年二回以上の開催が義務付けられている「適切なコーディングに関する委員会」を原則毎月開催とする等の案が挙げられた。さらに最近の傾向として「診断群分類の上 6 桁のミスは減少している一方で、下 8 桁の選択においてミスが増加している印象がある」との声があり、コーディングテキスト等によるフォロー対策を求める意見も挙げられた。ヒアリングでの医療機関の回答と今回挙げられた委員からの意見を勘案して、今後の検討課題とする。

■退院患者における「治癒」減少傾向についてはさらなる分析を

同日は 2014 年 11 月 10 日の会合で報告された 2013 年度退院患者調査の結果（14. 11. 10 中医協「2014 年度第 6 回 診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会」http://www.medical-lead.co.jp/documents/141110dpc_001.pdf 参照）についても議論を行った。この調査の結果では、DPC 対象病院の退院患者において「治癒」が減少している点に関して、中医協基本問題小委員会からその妥当性を問われている。

今回は第 6 回の会合で挙げられた見解に同調する意見に加え、医療の現場を知る委員から、医師が「治癒」を選択しにくい背景として「治癒の定義が不明瞭」「疾患によって状況が異なる」といった問題があることが指摘された。これらの意見を踏まえ、実態の把握に向けたデータ分析を進めつつ、アンケート調査の実施を検討することとなった。